



兵庫県立 ひょうご こころの医療センター 連携施設

精神科専門医研修プログラム

Hyogo Prefectural Hyogo Mental Health Center

Psychiatry Residency Programs 2018

CONTENTS



院長からのメッセージ	3
兵庫県立 ひょうご こころの医療センターについて	4
研修理念・研修目標	6
プログラム概要	7
専攻医募集要項	12
お問い合わせ先	13

院長からのメッセージ

当センターで研修を考えている皆さんへ

兵庫県立 ひょうご こころの医療センターは昭和12年に設立された長い歴史を持つ精神科病院で、ここで臨床研修を受け研鑽した精神科医が、兵庫県のみならず日本各地で活躍しています。当院は精神科医療改革の大きな流れに沿って、退院支援と地域移行を推進し、また多様化する精神科疾患に対応し、より専門的で高度な診療が出来るように医療機器の整備や臨床研究を進めています。こうした中で、疾患や障がいでだけでなく、その人の生活や社会的背景も考慮した全人的な医療を実践し、地域に展開しています。



当院での後期研修では、精神神経学会専門医、精神保健指定医の資格を得るために必要な経験を積むことを目指します。神戸大学病院、兵庫県立尼崎総合医療センターや姉妹病院である沖縄県立八重山病院をはじめとする多くの総合病院、また地域精神科医療を担う精神科病院と連携することとしており、これらの病院での研修での身体疾患に併存する精神疾患や、地域での患者支援についても合わせて研鑽を積んでいくことが可能となっています。

また当院には児童思春期センター、精神科救急医療センター、アルコール依存症の専門病棟を整備しており、さらに本年1月に認知症疾患医療センターに指定され、診療を行っています。これら各分野に優れた専門医・指導医を擁し、プライマリ・ケアから専門性の高い診療まで数多くの経験を積むことが可能です。

研修プログラムは、専門医として実力を身につけていくための基本的な領域を広く学ぶ一方、将来のキャリアデザインをふまえた自由度の高い研修を行えるよう設定されています。また、地域精神科医療体制の充実した兵庫県内の医療機関などでも地域医療を経験し、臨床的に適切な判断と対応ができるよう、実力を身につけることを重視しています。

当院は神戸市の中心地から地下鉄で10分余の風光明媚な自然の中に位置しており、生活環境にも大変恵まれています。そのような中、医師のみならず他職種との和気藹々とした交流の中で、充実した研修医生活を送っていただければと考えています。希望と熱意にあふれた研修医を迎えることは、私たち病院職員にとって大きな喜びです。多くの方々の応募を心待ちにしております。

兵庫県立 ひょうご こころの医療センター

院長 田中 完

兵庫県立 ひょうご こころの医療センターについて

1) ひょうごこころの医療センターの歴史

昭和 12 年神戸市北区に県立精神科病院光風寮として開設されました。精神科医療の発展、分化に伴って病棟はアルコール症治療専門病棟、思春期病棟、社会復帰病棟などそれぞれ特徴をもって多彩な精神科医療のニーズに応えてきました。平成 19 年 10 月救急医療センターを開設し、兵庫県精神科救急システムの基幹病院として精神科救急患者への対応を開始し、平成 21 年度には訪問看護など地域生活の支援を開始、さらに平成 25 年 6 月より児童思春期病棟を開設しました。H29 年 1 月より神戸市の認知症疾患医療センターに指定されました。H29 年 4 月より、病院名を兵庫県立光風病院から兵庫県立 ひょうご こころの医療センターへ変更しました。

2) 施設としての特徴

当院はスーパー救急病棟、アルコール依存症専門病棟、児童思春期病棟等を有し、認知症や薬物関連障害、触法・難治症例などへの治療や社会復帰支援など、各病棟はそれぞれ機能別に運営されています。入院患者はそれぞれの疾患や病状に応じて、より適切な入院環境での治療が行われるように配慮されています。

スーパー救急病棟(60 床)では精神科救急情報センターとの連携を取りながら、精神科救急患者の治療に当たっています。措置入院(緊急含む)、応急入院などの精神科 3 次救急に相当する症例を多く経験でき、精神科救急での診断技法、治療対応や急性期病棟でのリハビリテーションや心理教育などを学ぶことが出来ます。アルコール依存症専門病棟(53 床)では院内断酒会、講義やトレッキングなど、3 か月間のリハビリテーション入院を基本とした治療プログラムが行われています。児童思春期専門病棟(65 床)(県立上野ヶ原特別支援学校、分教室併設)では関連施設と連携を図りながら児童思春期精神科医療の向上と専門医の育成に努めています。児童思春期心性や家族へのアプローチなどを学ぶことができます。平成 29 年 1 月より、認知症疾患医療センターを開設され、老年期の認知症関連の診断や治療を行っています。また司法精神医学の分野では、医療観察法に指定通院医療機関に指定されており、対象者の鑑定や診察を行なっています。また起訴前簡易鑑定、司法精神鑑定を積極的に行なっており、司法精神医学分野でも兵庫県で中心的役割を担っています。難治性精神疾患に対してはクロザピンや修正型気けいれん療法(m-ECT)などの治療も取り入れています。入院が長期となっている患者に対しては、地域と連携を図りながら退院促進が行われており、多職種の専門性を活かした関わりや地域生活の支援の実際について学ぶことができます。

・疾患別入院数・外来数（2016年度）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	52	29
F1	269	135
F2	773	215
F3	474	111
F4 F50	982	91
F4 F7 F8 F9 F50	1843	153
F6	22	1
その他	139	31

3) 学術活動

日本精神神経学会、日本病院地域精神医学会、日本児童青年期精神医学会、日本アルコール関連問題学会、日本精神科救急学会、日本司法精神医学会等への参加、発表を行っています。

また、児童思春期患者を対象とした介入研究やアルコール依存症患者を対象とした研究などを行っています。

4) 導入機器

平成28年度より光トポグラフィが設置され、平成29年4月よりMRI、SPECT装置が設置され運用しています。うつ病や老年期の認知症の診断、治療などをさらに積極的に行って参ります。



研修理念



Patient-centered

- ・ 充実した指導の下で非常に豊富な臨床経験を積むことにより、優れた臨床医が育ちます。形式だけの研修ではなく、アウトカムを重視した研修を提供することで、患者中心の医療の提供が行える臨床医の養成を目指します。

Community-based

- ・ 現在、地域に根差した精神科医療の提供が求められています。当院は公立病院であり、様々な専門病棟を有していることから、高い専門性を必要とする症例をバランスよく経験することが可能です。精神保健指定医、日本精神神経学会専門医の取得に必要な症例を経験するだけでなく、地域の第一線でオールラウンドに診療を行える知識と技術を得ることができるよう研修コースを作成しています。

Challenge

- ・ 指導者中心ではなく学習者中心の研修を提供できるよう、現状に満足することなく、より良い研修となるよう努力します。光風病院から、多くの有能な精神科医が生まれるよう、研修医の先生方ひとりひとりの希望に応じた研修の提供を目指します。

研修目標



- <1年目> 精神疾患の基本的な診断、治療、面接技法を学ぶ。
- <2年目> 他職種と協働して治療をすすめる、サブスペシャリティ領域を経験する。
- <3年目> 自ら診断し治療を立案でき、さまざまな臨床場面での学びを深める。



プログラムの概要



本施設群は20の施設群から成っている。1年目は研修基幹施設、2、3年目は研修連携施設をローテートして研修する。専攻医は年5名を予定している。研修基幹施設である兵庫県立ひょうごこころの医療センターは公立単科精神病院であり、様々な専門病棟を有している。

1年目には充実した指導の下で主要な精神疾患の患者を受け持ち、面接法、診断と治療計画、精神療法、薬物療法の基本を学ぶ。さらに、思春期症例、アルコール依存症、難治性精神疾患治療(m-ECT、クロザピン)等、臨床を幅広く経験する。また、研究・学会発表についても指導を受ける。

2～3年目には大学病院(神戸大学医学部付属病院)、総合病院精神科(兵庫県立尼崎総合医療センター、兵庫県立淡路医療センター、市立加西病院、加古川中央市民病院、沖縄県立八重山病院、大阪府済生会中津病院、高槻病院)、私立単科精神病院(姫路北病院、関西青少年サナトリウム、新生病院、植苗病院、大植病院、仁恵病院、三田西病院、神出病院)を各6か月ずつローテートし、身体合併症治療、重度かつ慢性症例、急性期症例、児童思春期症例、認知症症例を幅広く経験し、精神療法、薬物療法を主体とする治療手技、生物学的検査・心理検査などの検査手法、精神保健福祉法や社会資源についての知識と技術を深めていく。これら3年間のローテート順については、本人の希望に応じて柔軟な対応が可能である。

さらに、児童思春期専門機関(兵庫県立こども病院、姫路市総合福祉通園センター)、認知症専門機関(兵庫県立姫路循環器病センター)、精神保健行政機関(兵庫県立精神保健福祉センター)などの各専門機関と連携しており、本人の希望に応じて、多彩なローテートパターンが可能である。

本研修プログラムから多くの有能な精神科専門医が生まれるよう、それぞれの希望に沿った丁寧な研修の提供を目指している。

<ローテーション例>

1年目前半	1年目後半	2年目前半	2年目後半	3年目前半	3年目後半
当院 (一般・慢性期)	当院 (急性期・救急)	尼崎総合医療 センター	神戸大学病院	当院 (依存)	当院 (児童)
当院 (一般・慢性期)	当院 (急性期・救急)	当院 (依存)	当院 (児童)	沖縄県立八重山病院	
当院 (一般・慢性期)	当院 (急性期・救急)	当院 (依存)	姫路循環器病 センター	当院 (児童)	兵庫県立 こども病院

<週間・年間計画>

週間計画

精神科慢性期研修プログラム

	月	火	水	木	金
午前	初診外来陪席	初診外来陪席	再診外来陪席	再診外来陪席	院内カンファレンス 病棟業務
午後	病棟業務	デイケア業務 病棟業務	病棟業務	病棟業務	訪問看護同行 病棟業務
17時 以降	医局会		初診カンファレンス (第2、4水曜)	精神鑑定検討会 (第3木曜)	症例検討会 (第4金曜)

精神科急性期・救急研修プログラム

	月	火	水	木	金
午前	病棟ミーティング 救急診察陪席	病棟ミーティング 初診外来陪席	病棟ミーティング 再診外来陪席	病棟ミーティング 初診外来陪席	院内カンファレンス 病棟業務
午後	救急診察陪席	病棟業務	病棟業務	救急カンファレンス 病棟業務	病棟ミーティング 病棟業務
17時 以降	医局会		初診カンファレンス (第2、4水曜)	精神鑑定検討会 (第3木曜)	症例検討会 (第4金曜)

アルコール依存症研修プログラム

	月	火	水	木	金
午前	初期講習(講義) (第2、4月曜) 病棟業務	初診外来陪席	初診外来陪席	再診外来陪席	院内カンファレンス 病棟業務
午後	運動プログラム 病棟業務	講義プログラム 病棟業務	趣味プログラム 病棟カンファレンス 病棟業務	院内断酒会 退院前講習 (第2、4木曜) 家族教室	テキスト学習 病棟業務
17時 以降	医局会 断酒会 (第1、3月曜)		初診カンファレンス (第2、4水曜)	精神鑑定検討会 (第3木曜)	症例検討会 (第4金曜)

児童思春期研修プログラム

	月	火	水	木	金
午前	病棟カンファレンス 病棟業務	初診陪席	病棟業務	初診外来陪席	院内カンファレンス
午後	病棟勉強会 院内学級会議 病棟業務	病棟業務	再診外来陪席	児童集団療法 病棟業務	思春期集団療法 病棟業務
17時 以降	医局会		初診カンファレンス (第2、4水曜)	精神鑑定検討会 (第3木曜)	子どもの心の診療 ネットワーク事業 症例検討会 (隔月) 症例検討会 (第4金曜)

年間計画

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会総会参加 日本司法精神医学会参加 一時救命処置(BLS)研修 包括的暴力防止プログラム(CVPPP)研修 認知症研修
7月	近畿精神神経学会参加 BLS 研修 認知症研修 子どもの心の診療ネットワーク事業症例検討会
8月	BLS 研修 全国自治体病院協議会精神科部会参加
9月	兵庫県立病院学会参加・演題発表 BLS 研修
10月	日本アルコール関連問題学会参加・演題発表 日本児童青年精神医学会参加 BLS 研修 CVPPP 研修
11月	BLS 研修
12月	日本精神科救急学会参加・演題発表 BLS 研修 子どもの心の診療ネットワーク事業症例検討会
1月	BLS 研修
2月	近畿精神神経学会参加・演題発表 BLS 研修 CVPPP 研修 地域精神医療研修 全国児童精神科医療施設協議会
3月	BLS 研修 総括的評価

教育スタッフ

精神科常勤医師22名(日本精神神経学会専門医指導医8名、精神保健指定医12名、臨床研修指導医11名)が専攻医の指導を行っています。

カンファレンスについて

- ・入院初期合同カンファレンス(毎週金曜日):その週に入院となった患者の情報共有
- ・救急カンファレンス(平日 毎朝):救急病棟にて行動制限中の患者の情報共有
- ・児童思春期勉強会(第1を除く月曜日):児童思春期の症例検討や各疾患に関する講義
- ・初診カンファレンス:外来初診患者の見立てや治療方針の相談
- ・簡易鑑定検討会(第3木曜日):起訴前簡易鑑定の意見書を元に症例検討
- ・措置解除症例検討会(随時)
- ・電気痙攣療法の症例検討会(随時)
- ・後期研修医向けのレクチャー(20講義程度、不定期)

設備等

机、ロッカー、本棚は医局内に個々人に配備されています。各自の机からLANでインターネットにつながることが出来ます。医局のパソコンからは医中誌、Pubmedにアクセスし文献検索を行うことができ、文献の取り寄せは司書を通じて公費で行っています。院内図書館の蔵書も充実しており、蔵書数は約6000冊、購読雑誌は「精神神経学雑誌」、「臨床精神医学」など和雑誌21タイトル、洋雑誌19タイトルにわたっています。当直室にはそれぞれシャワールームが整備されアメニティに配慮しています。

研修後の勤務先

研修終了後、当院にて引き続き常勤として勤務することも可能です。

専攻医募集要項

〈研修内容〉指導医の指導の下、豊富な臨床経験を積み、精神科全般における適切な診断、治療、面接技法を指導します。

〈研修期間〉原則 3 年としています。

〈募集人数〉5 名

〈応募資格〉医師免許を有し、採用時において卒後 2 年間の臨床研修を修了した者で、かつ医師免許取得後 3～5 年目の者(ただし、医師免許取得後 6 年目以上の者で研修を希望される場合は別途お問い合わせください)

〈待遇〉正規職員に準じます(詳細はお問い合わせください)。

卒後 3 年次 年額 800 万円、卒後 4 年次 年額 850 万円、卒後 5 年次 年額 900 万円(諸手当含む平均実績)

※学会出張費の支給は原則年 2 回

〈社会保険〉社会保険、雇用保険の適用あり

〈宿舎・住宅〉希望者に提供可能

〈勤務内容〉当院の研修プログラムに基づき、入院患者および外来患者の診療等に従事します。週 5 日勤務、日・当直回数は月 4～5 回。なお、日・当直は精神保健指定医との 2 人体制。

〈応募期間〉[一次募集] 平成 28 年 10 月 1 日～11 月中旬

[二次募集] 平成 29 年 12 月中旬～平成 30 年 1 月末

〈採用予定時期〉平成 30 年 4 月 1 日

〈応募手続き〉以下の書類一式を持参または郵送してください。

- ・履歴書(写真貼付)
- ・(様式 1)【志望理由記入表】
- ・(様式 2)臨床研修・勤務歴記入表
- ・医師免許証(写)
- ・卒業証明書
- ・成績証明書

〈選考方法〉応募書類審査および面接

〈病院見学〉

随時、見学を受け付けていますので、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

〈応募連絡先〉

〒651-1242 兵庫県神戸市北区山田町上谷上登り尾 3

兵庫県立ひょうごこころの医療センター 総務課

TEL:078-581-1013 FAX:078-583-3797

E-mail: kokoro_hos@pref.hyogo.lg.jp

※専攻医は当専門研修プログラムへの採用後、研修施設群のいずれかの施設と雇用契約を結ぶこととなります。

※本専門研修プログラムは、日本精神神経学会による一次審査を通過したものであり、今後日本専門医機構による二次審査を踏まえて修正・変更があることを予めご承知おきください。

〈お問い合わせ先〉

病院見学や、研修についての質問など、お気軽にお問い合わせください。

兵庫県立ひょうごこころの医療センター

〒651-1242 神戸市北区山田町上谷上字登り尾3

専攻医募集担当 廣田 兵庫

TEL:078-581-1013 FAX:078-583-3797

E-mail: Kofu_ikyoku@pref.hyogo.lg.jp

HP: <http://www.kofu-hosp.jp/>